

平成22年2月

林原雅子 学位論文審査要旨

主査 岸本拓治
副主査 豊島良太
同 萩野浩

主論文

Incidence and risk factors of falling in ambulatory patients with rheumatoid arthritis: a prospective 1-year study

(関節リウマチ患者における転倒頻度と危険因子：1年間の前向き研究)

(著者：林原雅子、萩野浩、片桐浩史、岡野徹、岡田順子、豊島良太)

平成22年 Journal of Osteoporosis International 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は、関節リウマチ（RA）患者の転倒について、1年間にわたる前向き調査を行い、その転倒頻度と危険因子を検討したものである。その結果、RA患者の転倒頻度は50%で、一般人と比べて高いこと、そして転倒の危険因子として腫脹関節数、降圧利尿薬内服、立位片脚起立時間低値、重心動揺面積高値を示し、転倒はRAの多関節障害によるバランス能力の低下と降圧利尿薬の副作用に起因する可能性を示唆した。本論文の内容は、RAにおける転倒の実態を明らかにし、その予防と治療を講ずる上で極めて有用なデータを明示したものであり、明らかに学術の水準を高めたものと認められる。